

ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド

運用会社構成の変更について

2022年10月31日発行

このたび、「ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)において、2022年10月31日付で運用会社構成の変更を行いました。

これまでグロース型運用を担当しておりましたカムイ・キャピタル株式会社を解約し、新たにマーケット・オリエンテッド型運用を担当する M&G インベストメンツ(ユーエスエー)インクを採用しました。

<運用会社構成と目標配分割合>

運用会社 (外部委託先運用会社／投資助言会社) ^(注1)	運用スタイル	目標配分割合(%) ^(注2)	
		変更前	変更後
アセットマネジメント One 株式会社《日本》[投資助言] ^(注3) (以下「アセットマネジメント One」といいます。)	グロース型	25	25
カムイ・キャピタル株式会社《日本》[投資助言] ^(注3) (以下「カムイ」といいます。)	グロース型	10	—
クープランド・カーディフ・アセット・マネジメント・エル・エル・ピー《英国》 [投資助言] ^(注3) (以下「クープランド・カーディフ」といいます。)	グロース型	10	10
SOMPOアセットマネジメント株式会社《日本》[投資助言] ^(注3) (以下「SOMPO」といいます。)	バリュー型	30	30
ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ・エル・エル・シー《米国》(以下「RIIS」といいます。)	バリュー型	10	10
スパークス・アセット・マネジメント株式会社《日本》[投資助言] ^(注3) (以下「スパークス」といいます。)	マーケット・オリエンテッド型	15	15
M&G インベストメンツ(ユーエスエー)インク《米国》[投資助言] ^(注3) (以下「M&G」といいます。)	マーケット・オリエンテッド型	—	10

(注1) 「運用会社」について、運用の指図にかかる権限を委託する運用会社を「外部委託先運用会社」、外部委託先運用会社に投資助言を行う会社を「投資助言会社」ということがあります。

(注2) 「目標配分割合」とは、運用会社を組み合わせる際に目安とする配分割合をいいます。

(注3) 各投資助言会社の投資助言に基づき、RIISが運用の指図を行います。

ラッセル・インベストメント株式会社

商号:ラッセル・インベストメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

TEL: 0120-055-887(フリーダイヤル)(受付時間:営業日の午前9時~午後5時) <https://www.russellinvestments.com/jp/>

以下、今回の運用会社構成変更の目的につきまして、ご説明いたします。

運用会社構成変更の目的

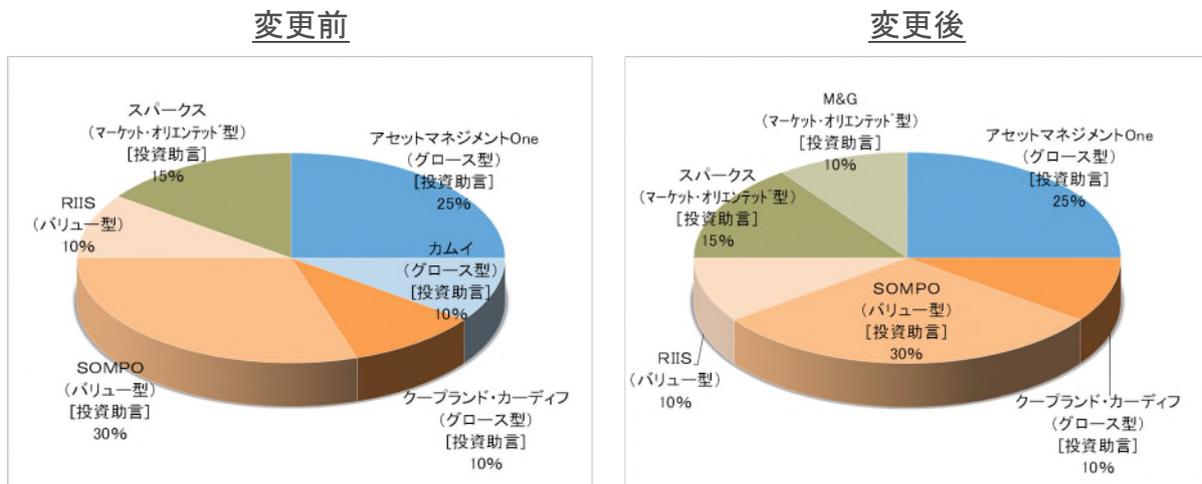
カムイにおいては、同社の超過収益獲得に貢献し、ラッセル・インベストメントが同社を高く評価する要因となってきた主たる投資判断者 1 名が引退の予定となりました。それに伴い、新たな採用運用会社候補について検討を進めてまいりました結果、今般、超過収益源泉の強化およびポートフォリオ全体のリスクバランス等の観点から最適と考える運用会社を新たに採用することと致しました。

新たに採用する「M&G」について

M&G は、グローバルで株式、債券、不動産等の資産運用サービスを幅広く提供する M&G PLC のグループ会社です。

今回採用する日本株式戦略の運用担当者であるカール・ヴァイン氏は、20 年超の日本株運用経験を有し、同氏をサポートする運用・リサーチチームも経験豊富な人材で構成されています。ファンダメンタルズ分析に基づくボトムアップでの投資対象銘柄の選定を行っており、個々の企業にとって最も重要な KPI(重要業績評価指標)の特定、現在の株価と本来価値とのギャップの要因の特定を重視します。また、シナリオ分析に基づく精度の高い収益予想に注力することによって投資確信度を高めることが可能であるとの投資哲学の下、リスク管理を適切に行いながら、超過収益確信度の高い銘柄群でリスクをとるポートフォリオ構築を志向しています。ラッセル・インベストメントでは、グローバル産業構造やサプライチェーンの深い理解を強みとし、市場が過小評価している収益シナリオによる投資機会を見極める同チームの能力を高く評価しております。

各運用会社への目標配分割合



(注) 上記の運用会社 (外部委託先運用会社 / 投資助言会社) の構成および目標配分割合は変更されることがあります。

今回の運用会社構成の変更は、ラッセル・インベストメント グループの継続的な運用会社調査の結果に基づくもので、マルチ・マネージャー・ファンドならではの特徴の一つです。

ラッセル・インベストメントのマルチ・マネージャー・ファンドでは、皆様の投資目標の実現を図るため、今後も状況の変化等に応じて、適切な運用会社構成の変更等を実施してまいります。

「ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド」を主要投資対象とする公募ファンド

- ラッセル・インベストメント日本株式ファンド(DC向け)
- ラッセル・インベストメント国内株式マルチ・マネージャーF
- ラッセル・インベストメント・グローバル・バランス(安定型/安定成長型/成長型)(愛称:ライフポイント®)

※当資料においてご説明するファンドは、ファミリーファンド方式により運用する当社設定の投資信託の主要投資対象である親投資信託(マザーファンド)に係わるものです。マザーファンドには直接ご投資できません。

以上

Copyright © 2022. Russell Investments. All rights reserved.

当資料中「ラッセル・インベストメント」は、ラッセル・インベストメント グループの会社の総称です。

ラッセル・インベストメントの所有権は、過半数持分所有者のTA アソシエーツおよび相当の少数持分所有者のレバレンス・キャピタル・パートナーズから構成されています。ラッセル・インベストメントの従業員およびハミルトン・レーン・アドバイザーズ・エル・エル・シーもまた、少数非支配持分所有者です。

フランク・ラッセル・カンパニーは、当資料におけるラッセルの商標およびラッセルの商標に関連するすべての商標権の所有者で、ラッセル・インベストメント グループの会社がフランク・ラッセル・カンパニーからライセンスを受けて使用しています。ラッセル・インベストメント グループの会社は、フランク・ラッセル・カンパニーまたは「FTSE RUSSELL」ブランド傘下の法人と資本的関係を有しません。当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。ラッセル・インベストメントによる事前の書面による許可がない限り、資料の全部または一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮下さい。

◎投資信託にかかる投資リスク

投資信託の基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きや為替変動等による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資信託では、投資者のみなさまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

投資信託は、投資信託毎に、投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、投資リスクの内容や程度が異なります。ご投資にあたっては、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

◎投資信託にかかる費用

【ご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。】

■直接にご負担いただく費用

申込手数料: 上限3.30%(税込)

信託財産留保額: 上限0.3%

■投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

運用管理費用(信託報酬): 上限1.98%(税込、年率)

諸費用(監査費用、目論見書の作成費用、運用報告書の作成費用等): 上限0.11%(税込、年率)

■その他の費用

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※「その他の費用」については、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

※ご負担いただく費用等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載している投資リスクや費用については、一般的な投資信託を想定しております。費用につきましては、ラッセル・インベストメント株式会社が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する各費用における最高の料率を記載しています(当資料作成日現在)。投資信託にかかる投資リスクや費用は、投資信託毎に異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

◎その他の留意点

- 当資料はラッセル・インベストメント株式会社が設定・運用する投資信託の運用状況等をお知らせするために作成するものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託の購入のお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社でお受取りになり、内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成していますが、その情報の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 当資料の中で掲載されている数値・データ等は過去の実績であり、将来の投資成果や市況動向等を保証するものではありません。
- 当資料に掲載されているコメント等は当資料作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の投資成果や市況動向等を示唆・保証するものではありません。
- 投資信託は、預金、保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 金融商品取引業者(従来の証券会社)以外の登録金融機関でご購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。
- 当資料で使用している各指数の算出、公表、利用および当該指数に関する商標、著作権、知的財産権などその他一切の権利は、当該指数の開発者または公表者および許諾者に帰属します。